

理工学系 電気電子工学 コース 4年

参加者氏名 平田 晃介

指導教員所属氏名 和田 圭二

1	プログラム名	電気電子工学に関する海外研修	
2	研修期間	2014 年 11 月 7 日 (水) ~ 2014 年 12 月 7 日 (金)	
3	研修先	国名 台湾	教育研究機関名 国立清華大学
4	内容報告	下記に記入のこと。(今回の研修等の成果を具体的にまとめて報告すること。 2枚までにまとめること。適宜、写真、図を含めてよい。)	

国立清華大学(新竹)

新竹にある国立清華大学は今回の研修先であり、1ヵ月間お世話になった場所である。

宿泊場所は大学内の寮である。私が泊まっていた寮は二人部屋で、部屋の中には勉強机とベッドを置くための場所、クローゼットがある。またインターネットは手続きをすれば使える。寮は5階建てであり、大勢の学生が暮らしている。寮には生活するには欠かせないシャワーや洗面台、洗濯機、乾燥機があり、テレビを見たり漫画を読んだりするための娯楽スペースや給湯器もあり、快適に過ごすことができた。

学内にはフードコートが3ヵ所あり、コンビニも2ヵ所あるため1ヶ月の期間では食べることができないほど沢山の料理が学内にある。また一食当たり、60元~120元(約180~360円)と値段が安く、量も多く、またおいしいため毎日の食事が楽しみであった。学外にも多くのレストランが近い場所に位置しているため外に食べに行くこともあった。寿司屋、カレー屋、鍋屋、日式料理店などの様々なお店があり、値段は100元~120元と学内レストランと比べ少し高い。学外、学内どちらのレストランにも共通して言えることは英語が少ししか通じないということである。故にメニューを見せて注文をするか、学生に頼んで注文をしてもらうなどの必要があった。帰る頃には少し中国語を学んだので、飲み物は口頭とジェスチャーで頼むこともあった。そして言葉は通じなくとも何とかかなるということをもっと体験をした。

また雑貨屋、散髪屋、漫画喫茶、クリーニング、本屋など様々なお店が学内にもあり、またスポーツができるようにプール、バスケットコート、バレーコート、他様々なスポーツコートが解放されており、学内で暮らすのに必要な設備が整っていて、住み心地の良い学校であった。

昼もだが夜も学生はフードコートで談笑しあったり、スポーツをしたりと学内の雰囲気は常に活気に満ち溢れており、他大学の雰囲気を楽しむことができた。



国立清華大学(北門)



学内レストラン

※ 研修終了後、指導教員の確認を得てから、宮崎教務係長 (miyazaki-naoko@jnj.tmu.ac.jp) にファイルで提出すること。(email address の @ の両側の空白はとる。)

参加者氏名

平田 晃介

平日は主に研究室にいた。研究室名は Power Conversion Lab という。研究室には現在修士 1 年生が 6 人、修士 2 年生が 5 人、博士 4 年生が 1 人の計 12 人が在籍しており、教員一人が全員を指導している。研究室内の雰囲気はとても明るく、研究に対しての意見交換や雑談などが頻繁に行われていた。また研究室のメンバーは仲が良く、食事はメンバー全員で行くことが多い。またバスケットやプール、ジョギングを週一回、多人数で行うなどとても活動的である。しかしただ遊んでいるばかりではなく研究するときは集中するなどメリハリがあり、研究に対する意欲も強く見習うべき点がたくさんあった。研究室のメンバーの仲の良さ、チームワークが研究意欲を助長している一因であると感じ、大切なことであると学んだ。そして彼らと触れ合うことにより国は違えど同じ学生であるということを理解し、親しみを感じた。学生や先生とのコミュニケーションの手段は英語である。授業では英語の授業でなくとも英語のテキストを使用していて、教授にもよるが話し言葉にも英語を使用するので学校が英語教育に力を入れていると感じた。英会話を通して、たとえ文法が間違えていたとしてもジェスチャーなどを使いとにかく話し、一生懸命に伝えることが大切だということを知った。しかし今回は自分の英語力不足で上手くコミュニケーションを取れなかったため、次回海外の学生と会話する時は上手くコミュニケーションを取れるように英語力向上に努めたい。



研究室

研究室にいる間は主に研究に関する論文を読み、また学生と共に回路の製作や英語でプレゼンテーションを行った。論文の熟読、ネットでの情報探索により自分の研究テーマへの理解がより一層深まった。プレゼンテーションでは研究に関する様々なアドバイスを頂け、また発表や質疑応答における英語による意図伝達の難しさを学び、大変刺激的な経験が得られた。回路製作では自分の研究室の製作方法とは違うので新たな試みをもって取り組むことができ、多くのことを学べた。

シンポジウム 2012, 11, 23 ~ 2012, 11, 25

台北の国立台湾科技大学で行われた台湾、日本間の Power Conversion のシンポジウムである。日本と台湾の約 30 校の大学から先生と生徒が集まり、口頭発表やポスター発表を行った。参加を通じてシンポジウムの雰囲気が思っていたよりも厳格ではないと感じた。これは決して悪い意味ではない。ポスター発表では活気があり明るい雰囲気だったので、発表者に気軽にポスターの説明を聞くことができた。また口頭発表では思っていたより質問が少なく驚いた。休憩時間やポスター発表は学生とコミュニケーションをとる、発表を聞くなどとても有意義な時間を過ごせ、シンポジウムの雰囲気を学ぶいい機会になった。



シンポジウム

身近で発表の雰囲気に触れたことにより研究意欲は向上し、そして英会話力を上達させたいとさらに思え、いずれはこういう場で発表したいと思えた。

台北、高雄

休日は主に観光をしに、台北や高雄へいった。

博物館として有名な故宮博物館や、509.2m もの高さを持つ台北 101、台北市内最古の寺院である龍山寺を観光し、西門や中山などの街並みを歩きまわり台北を楽しんだ。台北近くは観光地なので外国人がたくさんいて、日本人も見られた。そして日本語を使えるお店も多く、コミュニケーションが比較的容易だった。



台北の街並み

高雄では景勝地として有名な蓮池潭やとても賑やかな六合夜市を散策し、雰囲気を楽しんだ。

現地の文化、生活に触れ現地のの人々との交流を通じ、日本では得られない経験を得られ、人間としてまた一歩成長できたと感じる。